
慈 恵



令和 3 年 No.74



春

宗教法人 慈 恵 院

付属 多摩犬猫霊園

鑑賞



高橋泥舟

でいしゅう

幕末の幕臣。槍術に秀で、国事に通じ、講武所教授となり、一八六三年（文久三）新徴組を統率。鳥羽伏見の戦後、恭順謹慎説を主張。江戸城明渡し後は徳川慶喜を護衛。山岡鉄舟・勝海舟と共に幕末三舟と称。（一八三五—一九〇三）

一張没絃琴

弾ずる者古今少なり

これを聴けども

聞えざるの裏

山高く水深し 無絃琴圖

泥舟逸人

「高橋泥舟」岩下哲典著より

小僧の頓智

大智が初めて寒巖に参じた時は、まだわずかに七歳であつた。母に連れられて来て師に謁すると、その前に饅頭が出てあつた。寒巖はその饅頭を与え、自分も食べながら話しかけた。

「坊や、おまえは幾つかな」

「七歳になります」

「名は何というのか」

「万十と申します」

大智の幼名は万十といった。寒巖はこれが饅頭と同じ音なので、たわむれに、

「万十が饅頭を食う時にはどうじゃ」

と問うた。すると万十は、

「大蛇の小蛇を呑むがごとし」

と答えた。これには寒巖も感心し、なかなか利根な子だ、小知恵があるというので、弟子にして、小智という名を与えた。しかし、のちに「小智は菩提を妨げるというから小智ではいけない」と、みずから大智と改名したのである。

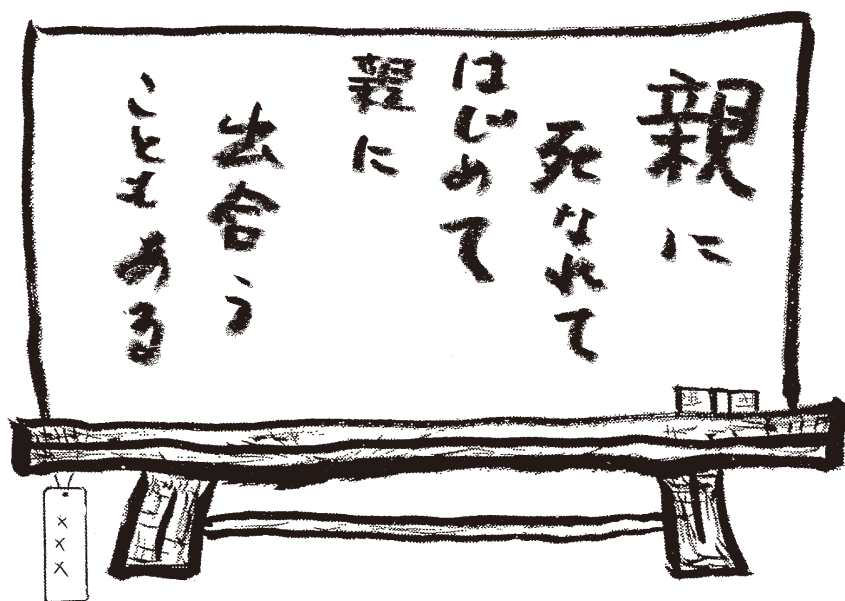
「禅門逸話集成」より

だい
ち
大智

(一二九〇〜一三六六)

曹洞宗。肥後の人。七歳、大慈寺の寒巖について出家。建長の南浦紹明などに参じた後、加賀大乘寺の螢山について嗣法。その後、元に渡り古林清茂、中峰明本などを歴参して帰国し、獅子山祇陀寺、鳳儀山聖護寺に居す。

掲示板





龍との思い出

日野市 楽本 梢 (40)

新型コロナウイルスの影響で自宅においても窮屈で不自由な思いをされている方も多いことでしょう。私自身、会社に出勤する頻度が減り、自宅で過ごす時間が増えてしまいました。朝起きたら「今日はなにをしよう」と思いながら目覚める日も少なくありませんでした。しかし、我が家では龍の存在によって家族みんなそんなにギスギスした思いを味わうことはなかったと思います。もうすでにおじいさん

だった龍は跳んではしゃぐこともなく、一日のほとんどもを寝て過ごしていました。私もそんな龍を見ながらのんびり過ごす時間も多く、ついつい昔の龍の思い出に浸ってしまいます。廊下は寒いのか日中でも長時間出ることはなくなり、ストーブの前に陣取り、顔面で熱風を受け、暖を取っています。若い頃は洋服なんて着たことがありませんでしたが10歳を超えたあたりから冬場は大人しく着てくれています。もともとは全体的に濃い茶色の毛色でしたが、年とともに顔の方から白い毛が増えてきて、「犬も年取ると白髪が出てくるのか」と何とも言えない気持ちになりました。散歩は大好きなので一日2回の散歩の前は落ち着きな

くまとわりつきますがそれ以外の時間はソファで丸まっています。そのお散歩も勢いがいいのは序盤だけであとはリードを引っ張ることもなく私達と足並みをそろえてゆっくり歩きます。腎臓が悪く、お腹を下すこともありましたが大病をすることはありませんでした。若々しい溼漑した感じはもうありませんが、寝ている龍の頭を撫でてあげると顔を上げて気持ちよさそうに目を瞑る様子が終始癒されていました。この自粛生活は龍のおかげで乗り切れたと思っています。

龍の衰えは感じていましたが、いざその時のことについてはまったく想像していませんでした。犬と人間では時間の流れる早さが違う、衰えてきたらあつと言う間だよと聞いていましたが、本当に心の準備が整う前に眠るように逝ってしまいました。最後まで私達家族の手を煩わせることもなく安らかに旅立ちました。あんなに近くにいたのに「これもしてあげられなかった、あれもしてあげられなかった」と後悔ばかりが募ります。またこのコロナ禍、何の準備がないまま逝ってしまったのでちゃんと送ってあげられるかも不安でした。こちらの慈恵院さんで葬儀をしていただき、小さなお骨壺に納まった龍はまだ自宅にいます。定位置であつたソファに今も寝ています。まだその隣に座ることはできません。龍との思い出が染みついた自宅にいるのが辛いこともありました。これで

は駄目だという思いもあり、家族とは龍と過ごした楽しかった日々を話すようにしました。龍のことを思わぬ日はありません。それでも最近思い出すのは龍が元気に散歩している姿や気持ちよさそうにお腹を出して寝ている姿に変わってきています。

あと十年は逝ないからね!!

墨田区 稲田 武士

慈恵七〇号に、三才と四才のプードル二匹我家にきたので阿弥陀様あと十年は迎えにこないで下さいと投稿した者です。ところが我家で大変なことがおきてしまいました。八月二十七日に妻があ

ています。この犬達を残して死ぬことはもちろん、ケガや病気になることもできません。毎朝四時に起きて、老犬はベビーカーにのせ、二匹のプードルはそれをひっぱって散歩にでかけます。一日三回三十分程、散歩に行きます。犬達のおかげで毎日、規則正しい生活をしています。おかげで健康な生活をおくっていられるのかもしれない。今頃、妻はあの世で八匹の犬達と楽しく暮していることでしょう。私は今現在八十才になりますが、犬達のためにあと十年は逝かないからね!!

春 じ よ み

5 月	4 月	3 月	当山行事
	4 / 4 (花まつり) 降誕会	3 / 23 明け (春分の目) 3 / 20 中日 3 / 17 入り 彼岸会	
● 5 / 21 小満 ● 薄荷草 (那須弥生)	● 4 / 20 穀雨 ● 伊勢の海の魚介豊かにして穀雨 (長谷川かな女)	● 3 / 20 春分 ● 春分の入日笹子に今滾つ (行人)	● 3 / 5 啓蟄 ● 啓蟄のもの驚かせ ● 午後の風 (星野立子)
5 / 1 八十八夜 5 / 3 憲法記念日 5 / 4 みどりの日 5 / 5 端午の節句 (菖蒲の節句) (こどもの日) 5 / 9 母の日	4 / 29 昭和の日	3 / 3 上巳の節句 (桃の節句) (雛祭り)	祝日等

「こよみ事典」東京美術 参考

癒やされる時間

トツキー動物病院(新宿区)

院長 清水 利紀子

令和2年は今までに経験したことのないコロナ禍に置かれ様々な不安やストレスを抱えた1年でした。その中で、新しく家族を迎えた方、長く共に過ごした家族とお別れした方、様々いらっしゃると思いますが、多くの方が共に暮らす動物達に癒やされ、日々の大変さを忘れるひとときを過ごせたのではないかと思います。

私自身もコロナ禍に愛犬を亡くし悲しい思いもしましたが、元気でいてくれている他のわんこ達にふと笑える癒やされる時間をもらっています。また、これまでに共に生活した今は亡き愛犬達とのたくさんのお出来事と、その頃の自分と合わせて懐かしく思い出したりしています。

仕事柄もあり、多くの飼い主様、動物達との出

会いがあります。いろいろな形で皆様の動物達への愛を感じながら仕事の原動力とさせて頂いています。

何かとストレスの多い時代ですので、多くの方が動物達から癒やしをもらい、また愛を与え心豊かな日々を過ごせているといいですね。

これから多くの動物達との縁を大切に公私ともに頑張っていきたいと思っています。

